１．起業教育研究会報告書「起業教育」の発行について

大阪商業大学　学長　谷岡一郎

「起業」は近代資本主義の精神（the spirit of capitalism）の中心を占める概念です。日本という国は今、既得権益の保持、そして決断の先送りという事勿れ主義の中で閉塞感に喘いでいます。この閉塞感を打破するひとつの方法は、若者たちを中心として起業の夢を持つことだと思います。

本当に起業するか否か、起業しても成功するかは、二の次。運や偶然も左右する世界ですから、より確実な道を選ぶのも悪くない人生でしょう。重要なのは心の中に起業の夢を持ち、そのために「自らの生き方を変えていこうとする気持ちにあるのだ」とあえて言っておきます。

起業のプロセス

起業をプロセスとして見れば、「萌芽的アイデア」に始まり、次にそれを実際に計画として形あるものにする「企画・立案」段階に移ります。ここでは、資本金や販売ルート、そして収益見込みなど、（机上とはいえ）多くのことを考えなくてはなりません。続く第三ステップは「実行力」です。実際に人や金や情報を集約し、スケジュールに従って活動を開始するわけですが、ここまでやって始めて起業をスタートしたと感じるはず。とにかく実行の一歩を踏み出すことは勇気の要ることです。起業計画が優れたものであり、理論に裏付けられたものであっても、成功するとは限らないのが恐ろしい点であり、またおもしろい点でもあります。

あとは、発展していく段階での調整と変更プロセスですが、ここにおいて最も重要だと思われる要素は「リーダーシップ」です。リーダーが実際に決断することは当然として、その決断に皆がついて来るか否かが問われます。カリスマ的魅力と安定感・信頼感を人々がリーダーに対し持っていること、つまり徳が必要なのです。

起業教育

テクニカルな側面は、教えることが比較的容易な部分と考えられますが、

本人の「徳」に関しては困難かもしれません。願わくば家庭環境の中で培われていてほしいものですが、何歳で始めようと学びうるコンセプトでもあると信じます。起業に限らず、学びたいことをスタートさせることが悪いはずないですね。

徳やスピリットを学ぶひとつの方法は、尊敬できる人々とお付き合いを重ねること、少なくともそうしようとする気持ちを持ち続けることでしょう。その点で、実際に起業に成功した人々は得難いリソースですが、個人意見としまして「起業に失敗した人（それでいてメゲない人）」から学ぶこともそれ以上にあるのだと言っておきましょう。

起業教育研究会は大阪商業大学の教員を中心に、多方面の方々を巻き込んだ活動を行ってきました。これからも活動をさらに発展させ、その成果を報告してくれるものと思います。この場を借りて日頃ご協力を賜っている関係者の皆様に、感謝申し上げます。